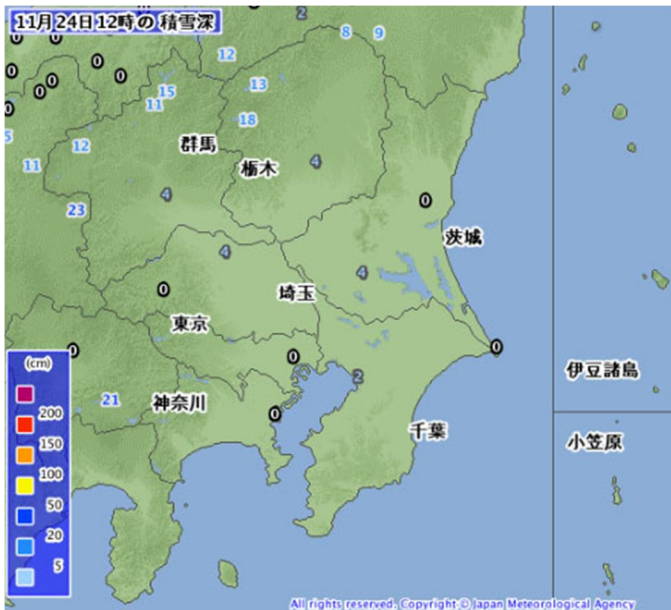


「11月の雪を探究する(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「東京で積雪を観測」というのは、厳密には東京管区気象台(大手町の気象庁と同じ場所)に「雪が積もった」という状態をいう。気象用語での「積雪」とは、雪や霰が「地面の半分以上を覆った」状態をいう。



上図は11月24日12時のアメダスの積雪深(せきせつしん)である。東京の積雪深は「0」である。気象庁の定義では、「積雪0cm」は、観測点周辺の地面を、半分以上雪や霰が覆った状態のこと、「積雪なし」は雪や霰が全くないか、観測点周辺の地面の半分までは雪や霰が覆っていない状態のことを指す。アメダスでの表示「0」が、そのどちらを指すかは判断できない。しかし表示「0」でも、積雪がある可能性はあることに注意しなければいけない。



写真は当日午前中の、本校の校庭(芝生)の様子である。まだ「半分覆った」とはちょっと言い難い。



これは花壇の地面。確かに雪は積もっているが、「半分以上覆っている」かどうかは、微妙なところ。



しばらくして学校園(畑)を見ると、かなり白くなっていた。これが「積雪0cm」の状態である。



土や芝には雪が積もりやすい。表面に凹凸が多いので、地面からの熱が伝わりにくいからだ。しかし、面白いと思ったのが、太陽光パネルに積もった雪。あっという間に真っ白になって、しかも薄皮のように滑り落ちて、パネル端で垂れ下がっている。一体どんな仕組みで、こんな奇妙な積もり方をするのだろうか？子どもたちは「ハンカチの工場みたい！」と喜んでた。